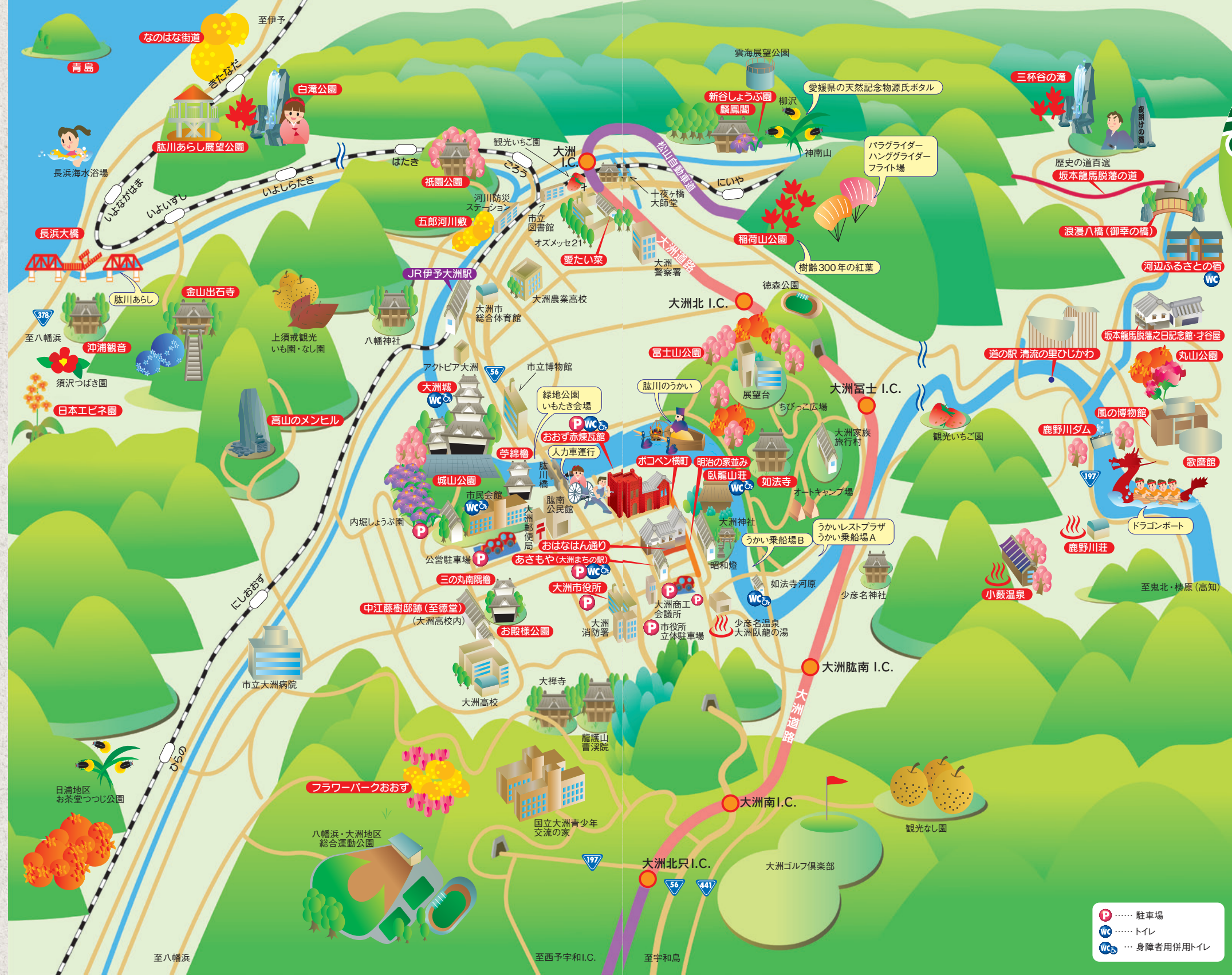


ふるさと大洲 きらめき マップ

見どころも遊びどころもいっぱい
そんな大洲の魅力をとことん体感

Map of noteworthy attractions in Ozu
Ozu offers plenty of sightseeing and recreational attractions. This map will help you experience all the charm and appeal that the city has to offer.

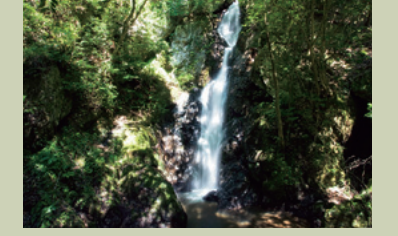


きらめく町並み



大洲には古きよき時代の面影が、今も色濃く残っている。特に江戸時代には城下町の中心として、明治以降は地域経済の拠点として活況を呈していた肱南地区はその代表。藩政時代の町割りに白漆喰でかためた土蔵づくりの建物が並ぶ「おはなはん通り(写真)」、質実な民家がたたずむ「明治の家並み」などのレトロなストリートは、昔と今のつなぎ役となり、大洲の豊かな歴史を雄弁に物語ってくれる。

きらめく自然



河辺地区のキビシ川上流にある「三杯谷の滝(写真)」は、落差15mの美しい滝。浪漫八橋の一つである龍神橋から勇姿が見られる。また肱川の河口から上流へ6kmほど溯ったところには、紅葉の名所「白滝」がある。詩人・野口雨情も絶賛した落差60mの滝は、「るり姫まつり」の舞台としても有名。さらに11月から2月にかけて、「鹿野川湖」に飛来する3,000羽のオンドリも必見。

きらめく景観



2,000年以上前のものといわれる「高山のメンヒル(写真)」など、大洲では人や自然が生んだ不思議な景観に出会える。県道長浜保内線を見下ろす山中にある「人面岩」は、今から150年以上前に曲がり淵から樹生に抜ける道路が完成した際、石工の力石力造が彫ったもの。縦5m、幅3mもある巨大な岩は、往来する人を見守ってくれているかのようだ。ほかにも樹生のライオン岩も有名だ。

きらめく文化財



大洲では貴重な文化財に出会うことのできる萬松山瑞龍寺(通称・沖浦観音)の本尊「木造十一面観音立像」は、国の重要文化財に指定されており、約1,000年前の平安時代の作といわれる。また出石寺の本堂に安置されているのは、南北朝時代の作で県指定有形文化財の「木造釈迦如来坐像(写真)」の銅鐘(国指定重要文化財)も残されている。

きらめく川・海の幸



鮎や鰻、川蟹、天然鮎など清流・肱川が育んだ天然の美味は、大洲市を訪れる人の楽しみとなっている。とりわけ鮎は、江戸時代、焼き鮎や甘露煮にして将軍に献上していたという逸話があるほどだ。一方、伊予灘で水揚げされる新鮮な魚介類も人気。中でも高級魚として知られるふぐは、主に長浜地区において、刺身や鍋、唐揚げ、雑炊などフルコースで味わう名物グルメとなっている。

きらめく里・山の幸



ひよく肥沃な土壌と水に恵まれた大洲市では、野菜や米、柑橘、タケノコ、栗などの生産が盛ん。大洲市森林組合と愛媛いき農業協同組合の登録商標である「味楽来(みらくる)しいたけ」など「大洲ブランド農産物」づくりも積極的に行われている。これらの地場産品は「たいき産直市愛たい菜」や「道の駅清流の里ひじかわ」、「大洲まちの駅あさもや」で販売している。